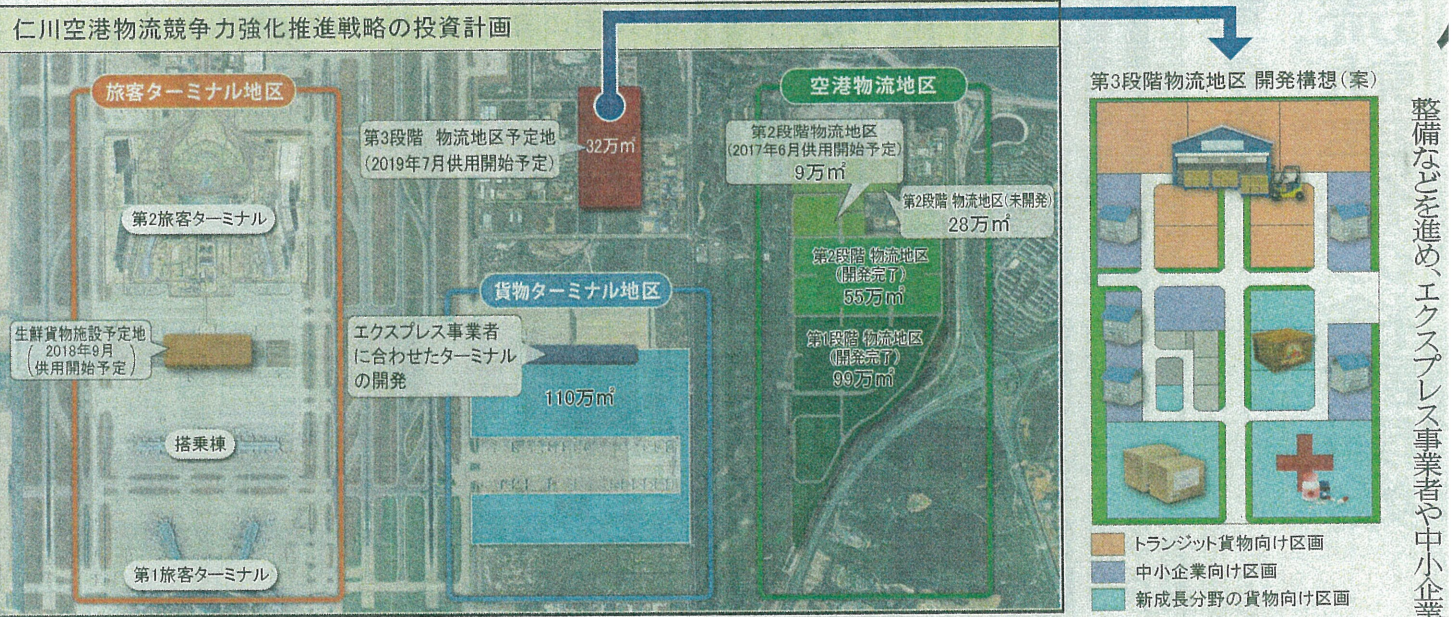


ニュースヘッドラインを毎夕配信中!
日刊CARGOメルマガ登録は
日刊CARGO 検索

船協・工藤会長
「来年は勝負の年」
海運税制拡充の取り組み継続

日本船主協会の工藤泰三会長(日本郵船会長)は21日に会見し、2017年度税制改正で海運関係の税制要望が認められたことについて、「海事クラスターの皆さんにご協力をいただいた。来年は勝負の年になる」と語った。



「中国や中東では空港インフラの拡張による容量拡大が進むなど(国際空港間の)競争は激化している。国内貨物量が多い中国、また、欧州路線でのトラフィック需要に優位性のある中東の空港に對し、仁川空港が競争力をつけるためには、インフラ先行投資やプロセス改善で、差別化できる戦略

近鉄エクスプレス・鳥居社長
「ピットと合う鎧兜で世界へ」
メディア懇談会で抱負

近鉄エクスプレスは20日、シェラトン都ホテル東京で報道関係者を招いたメディア懇談会を開催した。鳥居伸年社長をはじめ、同社幹部が出席した。冒頭、あいさつに立った鳥居社長は「われわれの現業であるフォワーディング事業をしっかりと立て直し、(APLという)ピットと合う鎧兜を着てこれから世界に出ていきたい」と述べた。乾杯の音頭を取った三橋義信専務取締役は「来年はさらに飛躍の年にしたい」と述べた。

「中国や中東では空港インフラの拡張による容量拡大が進むなど(国際空港間の)競争は激化している。国内貨物量が多い中国、また、欧州路線でのトラフィック需要に優位性のある中東の空港に對し、仁川空港が競争力をつけるためには、インフラ先行投資やプロセス改善で、差別化できる戦略

と振り返った。今期(2017年3月期)業績は、買収したAPLの統合に関わる諸費用の発生で期初目標を下回る推移が続くものの、「APLも含めて、各事業体の事業そのものは思惑通り順調に推移した1年だった」と述べた。来年に向けては、APLとの協業効果を最大限に発揮するため体制作りを注力する考えを強調。『来年の干支の「丁酉(ひのと)』は、新しい時代を築く一歩を成す年とされるが、頭でわかっているが体がついてこない年になると言われる。当社に置き替えても、ひょっとしたらそういう年になってしまうかもしれないが、私は昨年、今年、来年をいわゆる準備の年と考えている。この3年間を利用して、高価なお金で買った鎧兜(APL)を当社の体に合う形にアジャスト(適合)させ、かつわれわれの体もその鎧兜に合うようしっかりと鍛えていく」と述べた。

「中国や中東では空港インフラの拡張による容量拡大が進むなど(国際空港間の)競争は激化している。国内貨物量が多い中国、また、欧州路線でのトラフィック需要に優位性のある中東の空港に對し、仁川空港が競争力をつけるためには、インフラ先行投資やプロセス改善で、差別化できる戦略

と振り返った。今期(2017年3月期)業績は、買収したAPLの統合に関わる諸費用の発生で期初目標を下回る推移が続くものの、「APLも含めて、各事業体の事業そのものは思惑通り順調に推移した1年だった」と述べた。来年に向けては、APLとの協業効果を最大限に発揮するため体制作りを注力する考えを強調。『来年の干支の「丁酉(ひのと)』は、新しい時代を築く一歩を成す年とされるが、頭でわかっているが体がついてこない年になると言われる。当社に置き替えても、ひょっとしたらそういう年になってしまうかもしれないが、私は昨年、今年、来年をいわゆる準備の年と考えている。この3年間を利用して、高価なお金で買った鎧兜(APL)を当社の体に合う形にアジャスト(適合)させ、かつわれわれの体もその鎧兜に合うようしっかりと鍛えていく」と述べた。

「中国や中東では空港インフラの拡張による容量拡大が進むなど(国際空港間の)競争は激化している。国内貨物量が多い中国、また、欧州路線でのトラフィック需要に優位性のある中東の空港に對し、仁川空港が競争力をつけるためには、インフラ先行投資やプロセス改善で、差別化できる戦略

と振り返った。今期(2017年3月期)業績は、買収したAPLの統合に関わる諸費用の発生で期初目標を下回る推移が続くものの、「APLも含めて、各事業体の事業そのものは思惑通り順調に推移した1年だった」と述べた。来年に向けては、APLとの協業効果を最大限に発揮するため体制作りを注力する考えを強調。『来年の干支の「丁酉(ひのと)』は、新しい時代を築く一歩を成す年とされるが、頭でわかっているが体がついてこない年になると言われる。当社に置き替えても、ひょっとしたらそういう年になってしまうかもしれないが、私は昨年、今年、来年をいわゆる準備の年と考えている。この3年間を利用して、高価なお金で買った鎧兜(APL)を当社の体に合う形にアジャスト(適合)させ、かつわれわれの体もその鎧兜に合うようしっかりと鍛えていく」と述べた。

「中国や中東では空港インフラの拡張による容量拡大が進むなど(国際空港間の)競争は激化している。国内貨物量が多い中国、また、欧州路線でのトラフィック需要に優位性のある中東の空港に對し、仁川空港が競争力をつけるためには、インフラ先行投資やプロセス改善で、差別化できる戦略

と振り返った。今期(2017年3月期)業績は、買収したAPLの統合に関わる諸費用の発生で期初目標を下回る推移が続くものの、「APLも含めて、各事業体の事業そのものは思惑通り順調に推移した1年だった」と述べた。来年に向けては、APLとの協業効果を最大限に発揮するため体制作りを注力する考えを強調。『来年の干支の「丁酉(ひのと)』は、新しい時代を築く一歩を成す年とされるが、頭でわかっているが体がついてこない年になると言われる。当社に置き替えても、ひょっとしたらそういう年になってしまうかもしれないが、私は昨年、今年、来年をいわゆる準備の年と考えている。この3年間を利用して、高価なお金で買った鎧兜(APL)を当社の体に合う形にアジャスト(適合)させ、かつわれわれの体もその鎧兜に合うようしっかりと鍛えていく」と述べた。

「中国や中東では空港インフラの拡張による容量拡大が進むなど(国際空港間の)競争は激化している。国内貨物量が多い中国、また、欧州路線でのトラフィック需要に優位性のある中東の空港に對し、仁川空港が競争力をつけるためには、インフラ先行投資やプロセス改善で、差別化できる戦略

と振り返った。今期(2017年3月期)業績は、買収したAPLの統合に関わる諸費用の発生で期初目標を下回る推移が続くものの、「APLも含めて、各事業体の事業そのものは思惑通り順調に推移した1年だった」と述べた。来年に向けては、APLとの協業効果を最大限に発揮するため体制作りを注力する考えを強調。『来年の干支の「丁酉(ひのと)』は、新しい時代を築く一歩を成す年とされるが、頭でわかっているが体がついてこない年になると言われる。当社に置き替えても、ひょっとしたらそういう年になってしまうかもしれないが、私は昨年、今年、来年をいわゆる準備の年と考えている。この3年間を利用して、高価なお金で買った鎧兜(APL)を当社の体に合う形にアジャスト(適合)させ、かつわれわれの体もその鎧兜に合うようしっかりと鍛えていく」と述べた。